

捕獲等事業評価シート

(京都府 農村振興課)

評価シート（二ホンジカ）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	京都府福知山市大江町西部区域及び北部・小田区域
事業主体	京都府農林水産部農村振興課
事業実施期間	令和6年9月13日～令和6年12月9日
捕獲手法	くくりわな、銃猟（巻き狩り）
事業メニュー	②捕獲等メニュー及び③広域連携タイプ
事業費	10,890,000円

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	くくりわな：40頭 銃猟（巻き狩り）：65頭 合計105頭	くくりわな：5頭 銃猟（巻き狩り）：42頭 合計47頭	捕獲目標の達成率は45%であった。目標が達成できなかった理由として、くくりわなの誘引期間が短く、予定よりも捕獲できなかったことによる。
捕獲作業量	くくりわな：240台日 銃猟（巻き狩り）：126人日	くくりわな：270台日 銃猟（巻き狩り）：127人日	ほぼ計画通りの作業量を投じることができた。
効率的な捕獲	くくりわな：0.17頭/台日 銃猟（巻き狩り）：0.52頭/人日	くくりわな：0.02頭/台日 銃猟（巻き狩り）：0.33頭/人日	くくりわなの捕獲効率が予定よりも低かった理由は、明確ではないが、設置個所、時期等の要因が考えられる。
事業に要した人員数	143人日	203人日	予定以上の人員数を投じて作業を実施した。従事者1人当たりの捕獲数は0.232頭であった。
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、生態系に重大な影響を及ぼすおそれがないよう林内に埋設	提出した計画に沿って作業を行った。獣による掘り起こし等は発生しなかった。	予定通りの計画で事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・非鉛製銃弾を使用	・非鉛製銃弾を使用	予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の属性	【R5実績】 ・オス7頭、メス44頭 ・成獣51頭、幼獣0頭	・オス15頭、メス32頭 ・成獣47頭、幼獣0頭	昨年度よりもオスの割合が増えており、捕獲の効果が表れていると考えられる。

■ 添付図面（地点（緯度経度）地図/5 kmメッシュ地図/1 kmメッシュ地図）

1 銃猟（巻き狩り）の捕獲位置等に関する図面

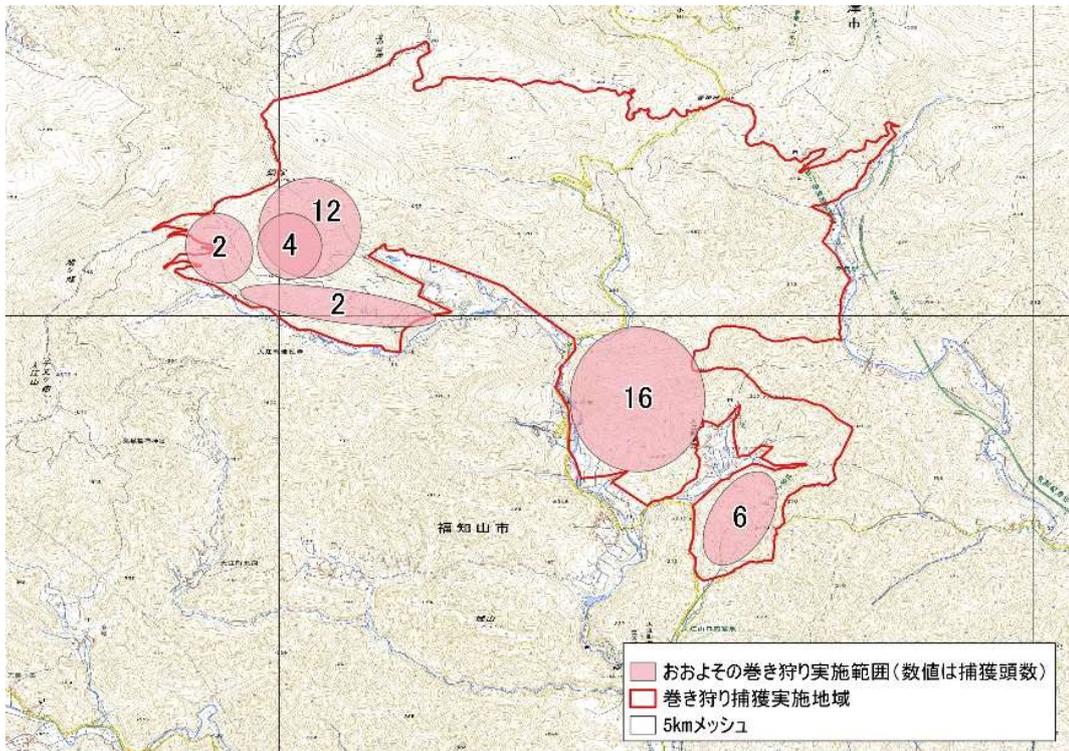


図 捕獲数と捕獲位置

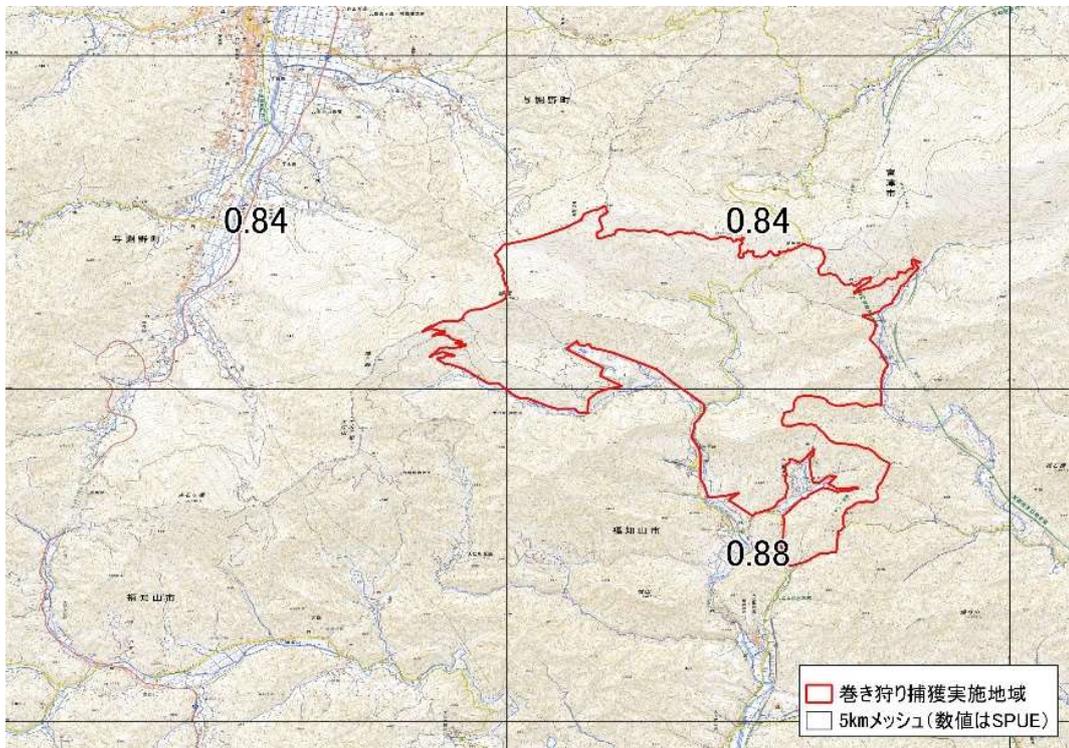


図 5kmメッシュ毎のSPUE

2 くくりわなの捕獲位置等に関する図面

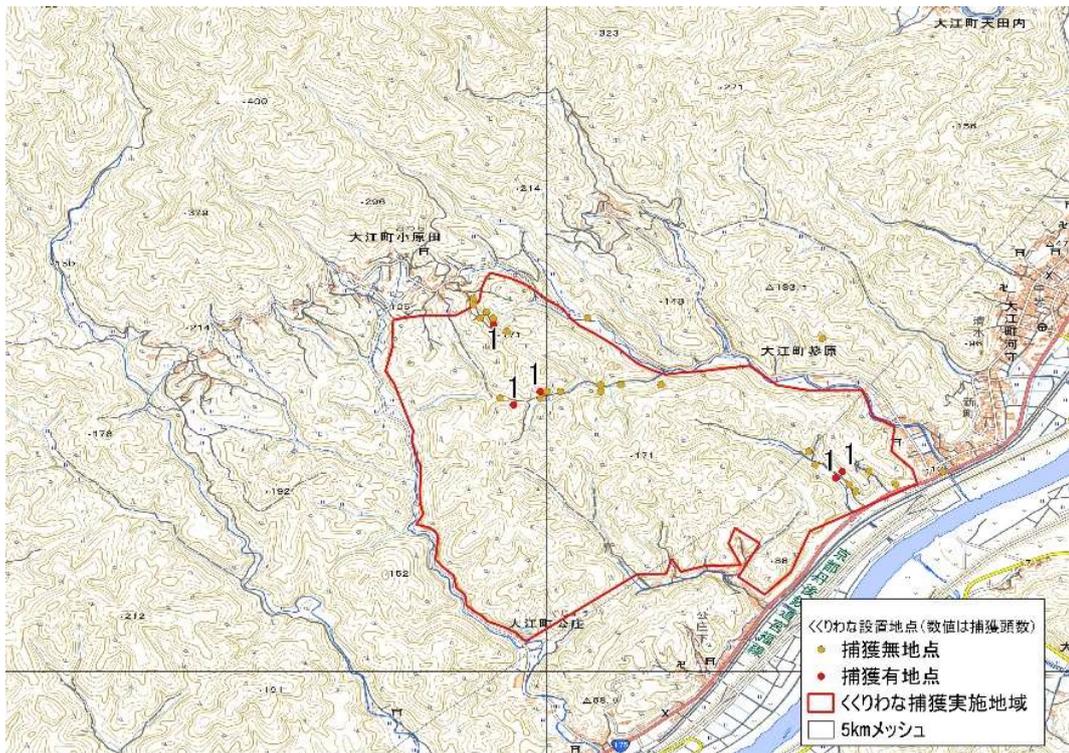


図 捕獲数と捕獲位置

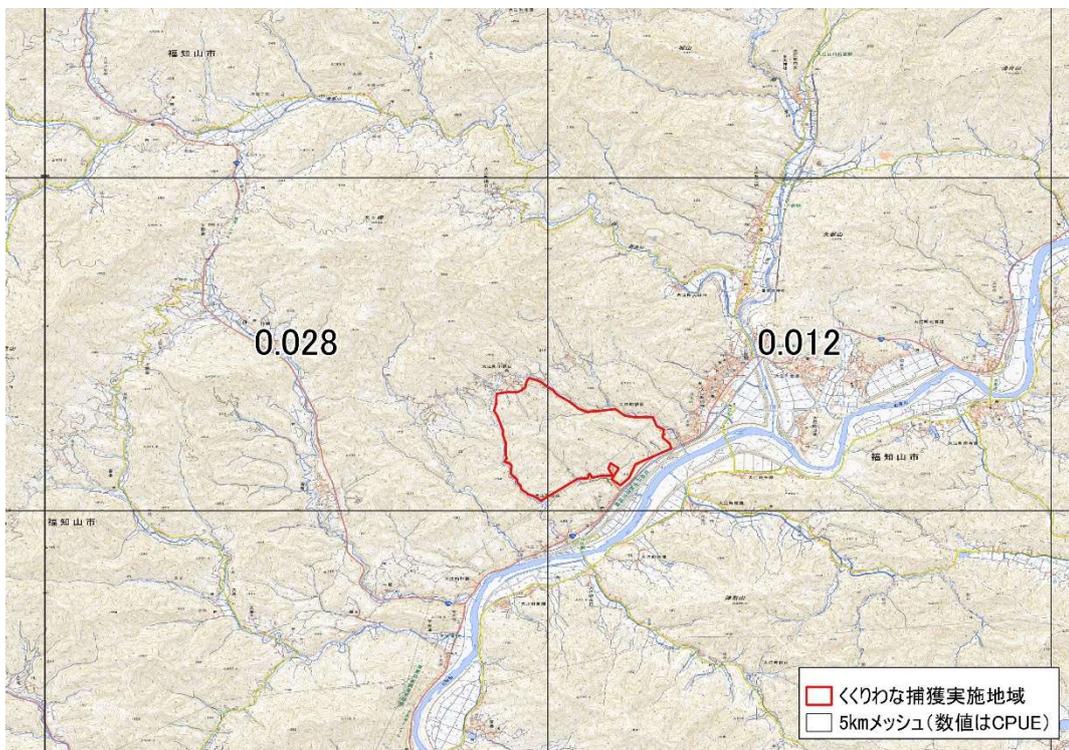


図 5kmメッシュ毎のCPUE

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

京都府福知山市大江町西部区域及び北部・小田区域

■ 生息状況（巻き狩りエリア）

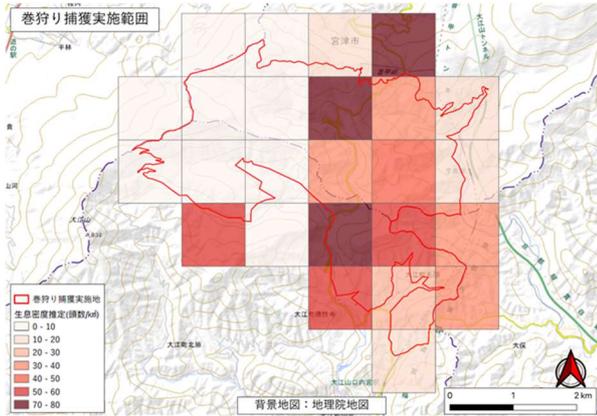
評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前	<ul style="list-style-type: none"> 赤外線カメラを搭載したドローンによる調査を実施（2024年2月） のべ353頭を確認 推定生息密度 エリア全域：31.3頭/km² (1kmメッシュあたり最大90.7頭/km²)
事業実施後	<ul style="list-style-type: none"> 赤外線カメラを搭載したドローンによる調査を実施（2025年2月） のべ435頭を確認 推定生息密度 エリア全域：36.9頭/km² (1kmメッシュあたり最大141.7頭/km²)
評価	<p>生息数、密度共に増加する結果となった。事業実施後一定期間経過した後に調査を実施したため、他所からの流入があった可能性もあり、事業の影響については狩猟での捕獲も含め、継続してモニタリングを実施する。</p>

■ 生息状況（くくりわなエリア）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前	<ul style="list-style-type: none"> 赤外線カメラを搭載したドローンによる調査を実施（2024年2月） のべ179頭を確認 推定生息密度 エリア全域：106.2頭/km² (1kmメッシュあたり最大179.3頭/km²)
事業実施後	<ul style="list-style-type: none"> 赤外線カメラを搭載したドローンによる調査を実施（2025年2月） のべ142頭を確認 推定生息密度 エリア全域：80.3頭/km² (1kmメッシュあたり最大160.3頭/km²)
評価	<p>生息数、密度共に減少する結果となった。ただし、捕獲実績は計画の13%と少なく、事業の影響については狩猟での捕獲も含め、継続してモニタリングを実施する。</p>

■ 添付図面

事業実施前



事業実施後

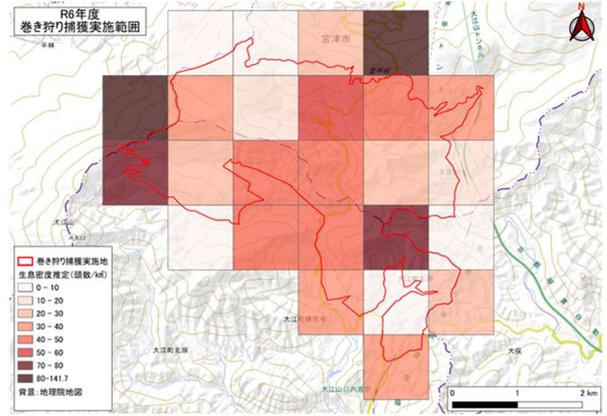
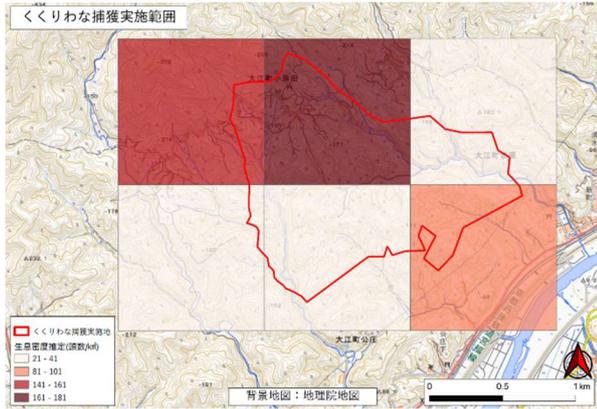


図 事業実施前後の生息密度 (巻き狩り実施エリア)

事業実施前



事業実施後

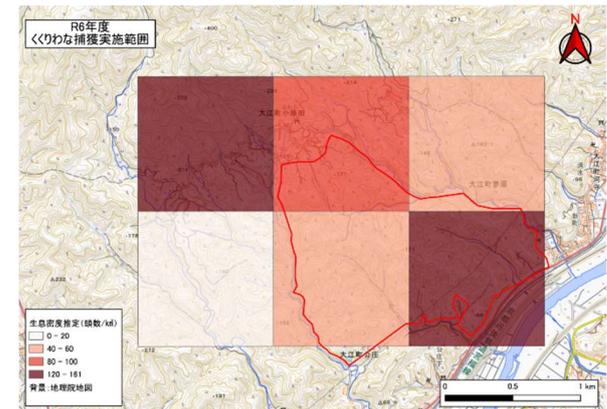


図 事業実施前後の生息密度 (くくりわな捕獲実施エリア)

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点 (STEP 1・2の検証を踏まえて記載)

1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標設定】	評価：銃捕獲、わな捕獲のいずれも目標達成率は低調であった。
	改善点：目標値を捕獲頭数に限定するのではなく、捕獲場所や捕獲時期に応じた被害程度を指標として組入れることを検討する必要がある。
【実施期間】	評価：銃捕獲は6回、わな捕獲は9日間であった。
	改善点：設定された実施日数の期間で捕獲目標を達成するためには、より多くの捕獲努力量か、実施日数の延長が必要であった。
【実施位置】	評価：銃捕獲については、現地事前調査及び夜間ドローン調査により、より効果的な捕獲位置を選定できた。
	改善点：わな捕獲については、より効果的な箇所への設置を検討する必要がある。
【捕獲手法】	評価：銃捕獲については、巻狩りが採用されており、同一場所での反復捕獲がそもそも難しい中、ドローンの活用で捕獲効率を高めるよう努めており、実施日数設定の最適化ができた。また、わな捕獲においては、ヘイキューブを用いた誘引による捕獲効率向上に努めた。
	改善点：次期捕獲では事前誘引を積極的に採用するよう仕様書や作業記録票の改訂を行う必要がある。
【捕獲コスト】	評価：予定していた人員や作業量を達成したが、約 230,000 円/頭のコストがかかった。
	改善点：より効率化し、捕獲努力量を増加させる必要がある。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：事前調査と捕獲事業を別発注とした。
	改善点：特に問題点はない。
【個体処分】	評価：捕獲個体は法令に従い、埋設、もしくは焼却施設搬入など適正に処理した。
	改善点：特に問題点はない。
【環境配慮】	評価：止めさしはすべて電殺器で実施し、銃は使用していない。
	改善点：特に問題点はない。
【安全管理】	評価：事前周知として、捕獲場所の周囲に注意喚起の看板を設置した。
	改善点：特に問題点はない。
3. その他の事項に関する評価及び改善点 捕獲事業受託者において、指定の記録様式に従い、適切に業務の報告がなされた。	
4. 全体評価 計画（目標設定、実施区域等）は適切であったと考えるが、実績としては十分とは言えないと考える。限られた期間に十分に密度を下げるため、わな捕獲における努力量確保とプロセス改善が求められる。	
■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について	
	モニタリング項目・方法
特定鳥獣管理計画の目標	令和6年度の府全域の捕獲目標数 26,000 頭（メス 15,000 頭、オス 11,000 頭）
寄与状況の評価	目標に対し本事業の捕獲頭数が占める割合は 0.2%と低いが、事業区域に限れば、銃猟は 12%、わな猟は 3%のニホンジカを捕獲し寄与したといえる。